

# 島のむんがたり

大きなカニ、見つけた!

昨年のお盆頃のこと。車を走らせていると、間もなく手々集落に入るといふところで、道路のど真ん中に1匹の大きなカニがいました。身動きひとつしないので、きつと死んでいるのだらうと思いがながらも、好奇心から車を降りて見に行くことにしました。

カニは重そうな2つの赤いはさみ(親爪)をもち、黒い甲羅をしていました。しばらく見ていても全く動きません。木の枝でなでるように触れてみると、ゆっくりと身動きをしました。夏の日差しのもと、甲羅干しをしていたようで



【手々近くの道路で見つけた「オオガニ」】

す。それにしても大きく、体に厚みがあったために車窓からでも存在感が感じられたのでした。

後から調べてみると、「オオガニ」だと判りました。夜行性で奄美以南から南太平洋・インド洋の島々に分布。より暖かな環境だと甲羅の横幅が10センチを超えるものもあり、ふだんは水気のない陸上において、夏の大潮の時期には産卵のために波打ち際に降りてくるそうです。シマの方々にはなじみ深いカニかもしれませんが、人の生活の場の目と鼻の先にこれほどの大物が生息していることに驚かされました。

都会の人々は貴重な生き物をひと目見ようと、お金と時間をかけて自然の中に分け入っていきます。しかし、時間やお金をかけたからといって必ず出会えるわけでもありません。今回のオオガニとの出会いは、徳之島にはさまざまなお動物が人々の身近な生活の場と隣り合わせに存在することを教えられ、また自然の豊かさを実感することができた貴重な体験となりました。

(町誌編さん室)

大村達郎)

問 郷土資料館

☎ 0997-182

12908